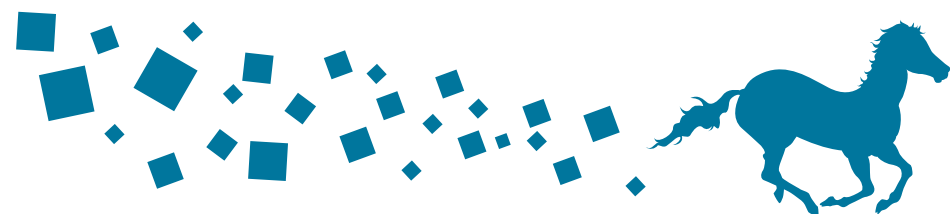


# 総合戦略

---

## 第6章 総合戦略

- 1 美馬市人口ビジョン
- 2 美馬市デジタル田園都市構想総合戦略





## 1 | 人口ビジョンの位置づけ

「美馬市人口ビジョン」は国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（以下「長期ビジョン」という）や県の「とくしま人口ビジョン」を勘案しつつ、国や県から提供のあったデータを基に、本市における人口の現状を分析し、人口に関する地域住民の認識を共有するとともに、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものです。

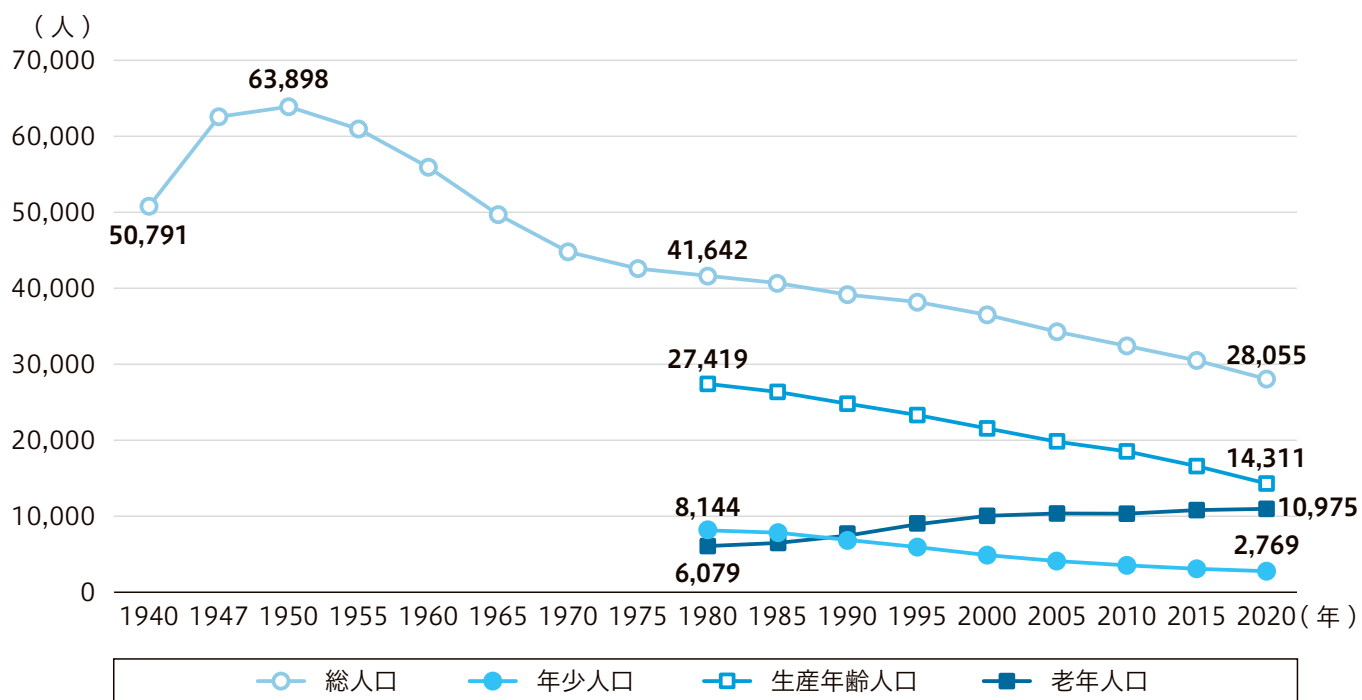
## 2 | 対象期間

「美馬市人口ビジョン」の対象期間は、国の「長期ビジョン」及び県の「とくしま人口ビジョン」と同様に、2060年までとします。

## 3 | 人口の動向分析

### (1) 人口の推移

#### ■美馬市人口推移



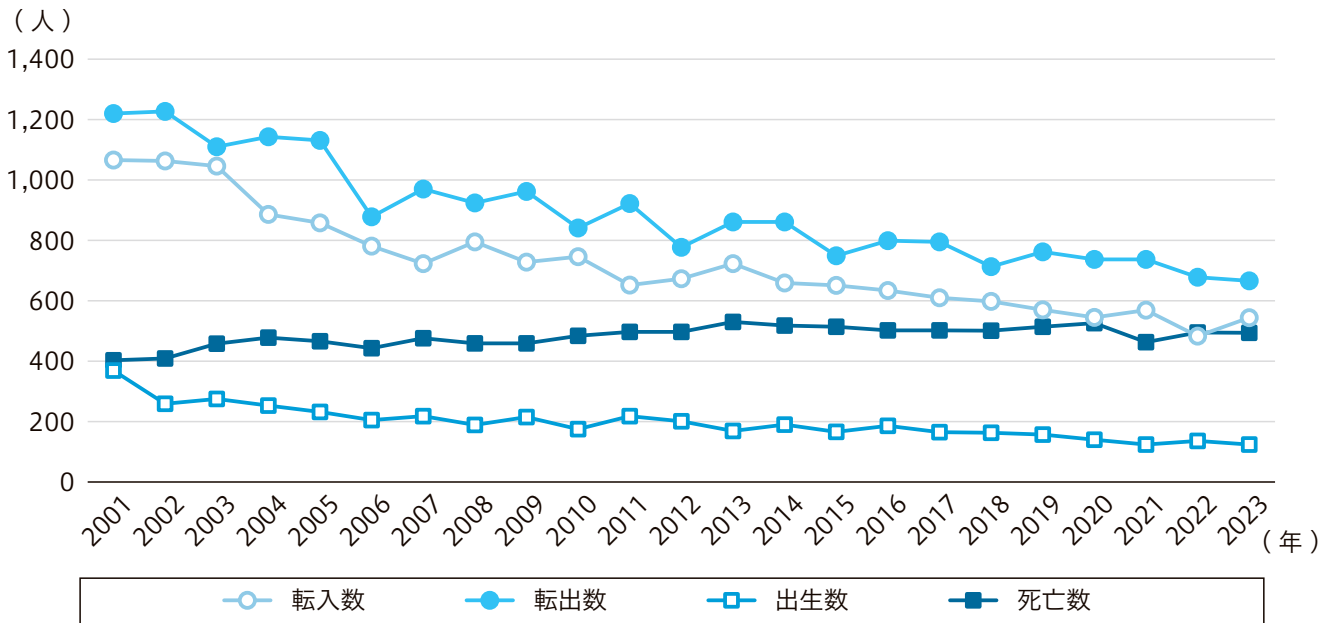
【出典】総務省「国勢調査」

本市の人口は、1950（昭和25）年の63,898人をピークに一貫して減少しており、2020（令和2）年には、1950（昭和25）年の約44%にあたる28,055人にまで減少しています。

また、2020（令和2）年においては、65歳以上の老年人口は10,975人であり、総人口の4割近くを占めています。このことから、本市の高齢化が進行している状況にあることがうかがえます。

## (2) 人口の動態

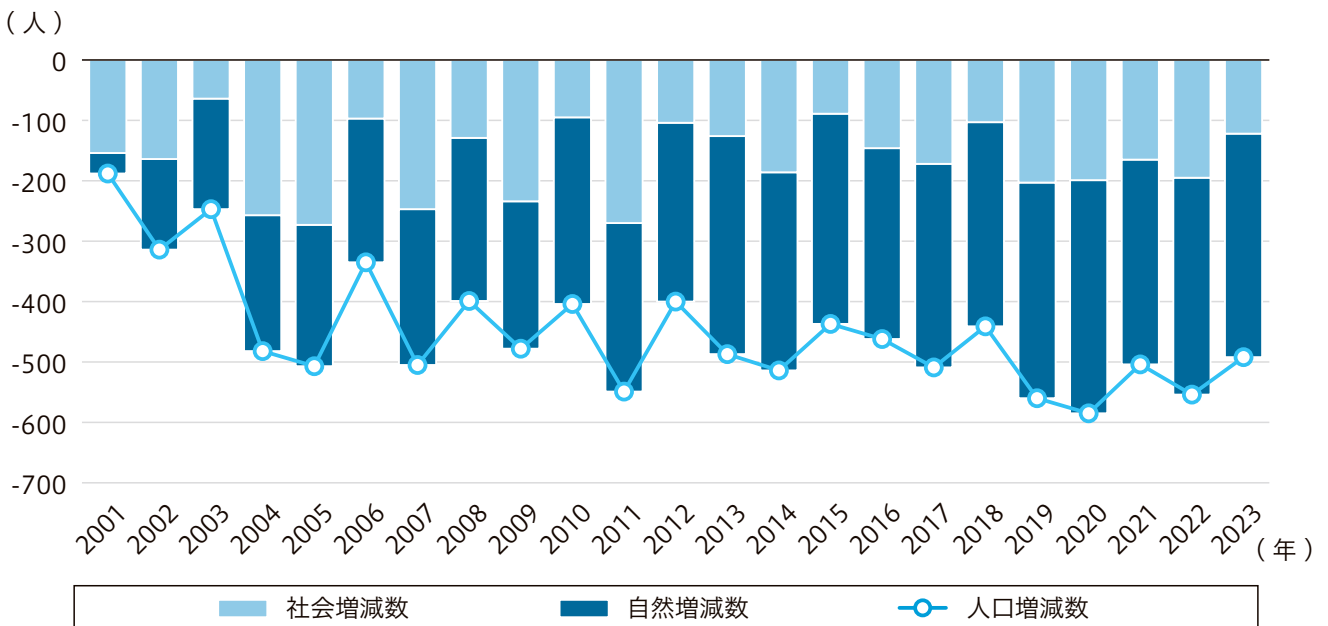
### ■美馬市人口動態



【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

自然増減については、死亡数が出生数を上回る自然減が継続しており、その差が広がっています。また、社会増減についても、転出数が転入数を上回る社会減が継続しています。

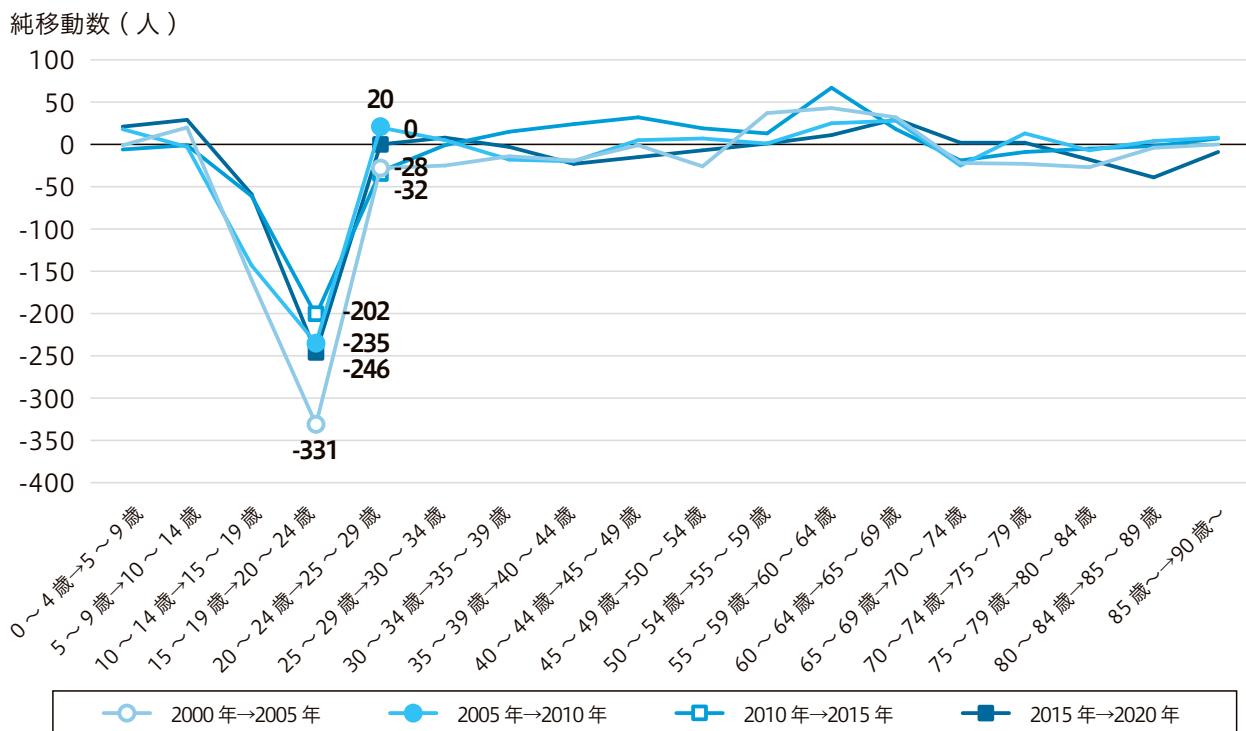
### ■自然増減・社会増減の推移



【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

このように、社会減が継続するとともに、自然減が拡大していることから、人口減少の影響度が社会減から自然減へシフトしていると言えます。

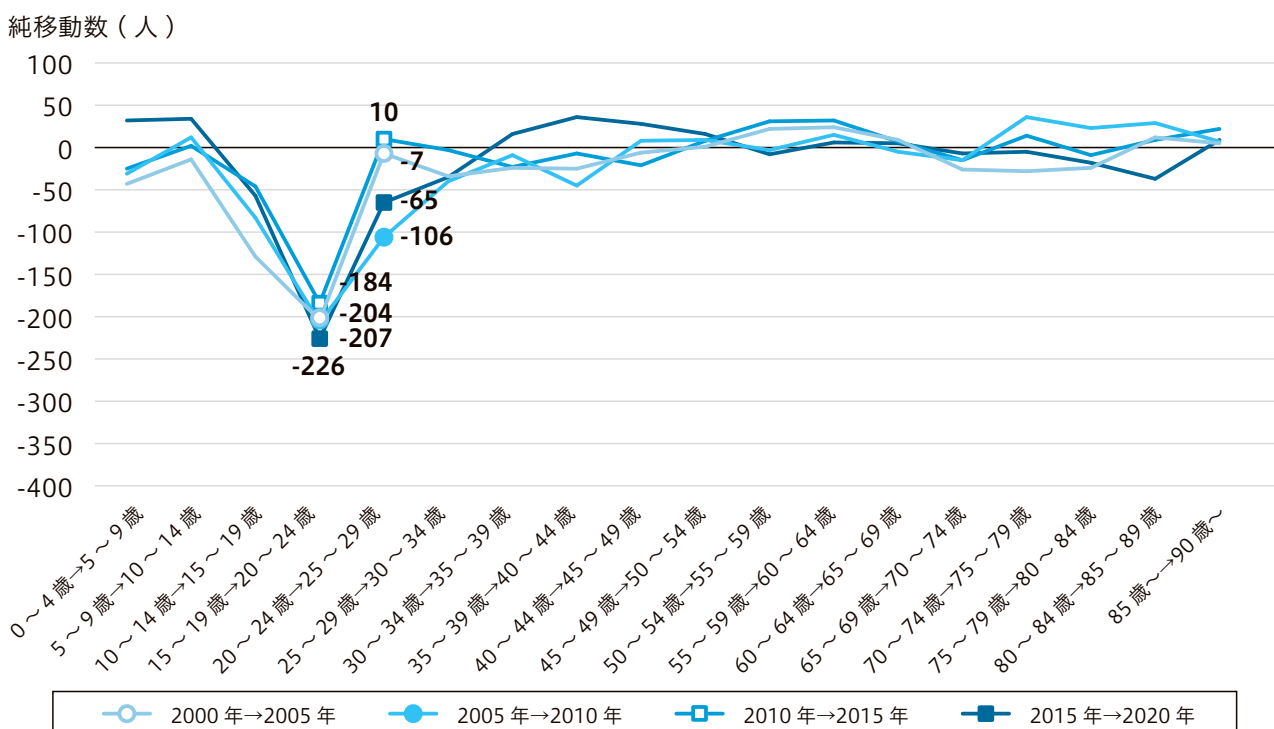
### ■年齢階級別純移動数（男）



【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」を基に内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が作成

年齢階級別の人口移動では、10代後半から20代後半の転出超過（社会減）が著しい状況が続いており、特に、男性においては、減少幅は近年改善傾向にあるものの、15～19歳→20～24歳の階級に大幅な転出超過が見られます。

### ■年齢階級別純移動数（女）



【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」を基に内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が作成

女性においては、同じ15～19歳→20～24歳の階級の男性と比較すると転出超過数は少ない傾向にあるものの、20歳代後半から30歳代にかけての転出超過が見られることから、Uターンの少なさが示唆されています。

## 4 | 将来人口推計

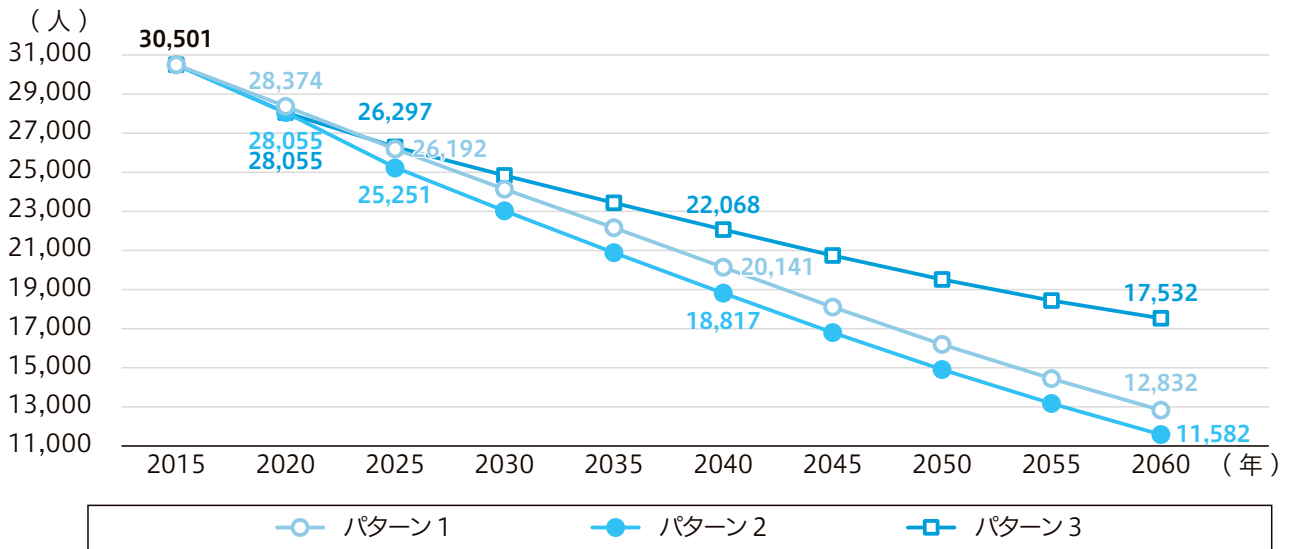
以上の人口の動向分析を加味した上で、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）の「日本の地域別将来推計人口」に基づく本市の将来人口推計を、次の3つのパターンで比較・検討することで、より具体的な目指すべき将来の方向と人口の将来展望につなげるものとします。

①パターン1 2018(平成30)年の社人研の推計

②パターン2 2023(令和5)年の社人研の推計

③パターン3 2023(令和5)年の社人研の推計に基づき、合計特殊出生率が人口置換水準（人口が増えもせず減りもせず一定となる出生の水準）である「2.1」まで上昇し、かつ人口移動が均衡する（移動がゼロとなる）場合の推計

### ■美馬市人口将来推計



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」の2018(平成30)年推計及び2023(令和5)年推計を基に作成

【注記】すべてのパターンにおいて、2015年は「国勢調査」に基づく実績値を使用し、パターン2及び3においては、2020年も「国勢調査」に基づく実績値を使用

## 5 | 人口の将来展望と目指すべき将来の方向

社人研の「日本の地域別将来推計人口（2023(令和5)年推計）」によると、2060年の本市の推計人口は11,582人とされており、前回（2018(平成30)年）推計における推計人口12,832人と比較して、1,250人減少しています。

国の「長期ビジョン」や「とくしま人口ビジョン」を踏まえ、本市の人口の将来展望については、平成27年10月に策定した「美馬市人口ビジョン」の考え方（合計特殊出生率「2.1」と人口移動ゼロを目指すというパターン③）を踏襲するとともに、社人研の人口推計の更新を反映し、次のとおり設定することとします。

2060年の総人口

「17,500人程度」

社人研の推計がより厳しいものとなったことを踏まえ、人口減少に歯止めをかけるための効果的な施策に粘り強く取り組むとともに、人口減少を前提とした、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるための施策についても、強力に推進する必要があります。

こうした施策を、後述する「美馬市デジタル田園都市構想総合戦略」に盛り込み、関係する施策と一体的に推進することが求められます。



## 1 | はじめに

本市では、「美馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「第2期美馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、約10年間にわたり、人口減少問題の克服と持続可能な地域づくりに取り組んできましたが、人口減少に歯止めをかけるまでには至りませんでした。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地方の経済・社会は大きな打撃を受けたと同時に、デジタル化への対応の遅れが浮き彫りとなりました。

こうした中、国は2022(令和4)年12月に「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定し、デジタルの力を活用して地方創生の取組を加速化・深化させることで、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」の実現を目指すこととしました。

また、県は2024(令和6)年3月に『『未来に引き継げる徳島』の実現』を基本理念とした「徳島新未来創生総合計画」を策定し、当該総合計画を総合戦略と位置づけ、両計画を一本化しました。

本市では、このような国・県の方針を受け、現行の「第2期美馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂するとともに、「美馬市デジタル田園都市構想総合戦略」(以下、「美馬市デジ田総合戦略」という。)として、2025(令和7)年度を始期とする「第3次美馬市総合計画・後期基本計画」(以下、「美馬市総合計画」という。)と一体的に策定することとしました。

## 2 | 総合戦略の位置づけと計画期間

- ▷ 「まち・ひと・しごと創生法」第10条に基づき、国及び県の総合戦略を勘案するとともに、「美馬市人口ビジョン」で描く将来人口の実現に向け、美馬市総合計画と整合性を持った、市の地方創生関連施策の目標や基本的方向を定める計画とします。
- ▷ 美馬市デジ田総合戦略の計画期間は、美馬市総合計画と同様、2025(令和7)年度から2029(令和11)年度までの5年間とします。
- ▷ 美馬市デジ田総合戦略に位置づける施策は、美馬市総合計画の中から抽出し、重点的な取組として再掲するとともに、それぞれ総合計画の成果指標をデジ田総合戦略の重要業績評価指標(KPI)として扱うものとします。
- ▷ 美馬市デジ田総合戦略は、2023(令和5)年3月に策定した「美馬市DX推進計画」との整合性を保ちながら、DX(デジタルトランスフォーメーション)による社会課題の解決に向けた取組を加速化、深化させるものとします。
- ▷ 目標ごとにSDGsとの関連性を明確化し、事業の実施に活用します。

### | 3 | 地域ビジョン

美馬市デジ田総合戦略の策定にあたっては、美馬市総合計画が掲げる将来像「美しく駆ける 活躍都市 美馬」のもと、デジタル技術の活用により地方創生を加速化させるため、次のとおり、地域ビジョンを設定します。

「しごと」と「ひと」が好循環し、  
誰もが「幸せ」を感じながら  
安全に暮らし続けられる地域社会の実現

本市においては、高齢化と人口減少が急速に進んでいますが、「美」や「健康」に関する有力企業が立地している「強み」を生かし、「人生100年時代」を美しく健康で、活躍できるまちづくりを進めています。また、近年は都市部企業のサテライトオフィスが進出しており、こうした企業との連携により地域の魅力を向上させ、人が集い、交流するまちを目指すとともに、県内大学や都市部企業とも連携して地域を支える人材の育成と雇用の創出を図ります。さらに、デジタル技術等を活用し、出産や子育てへの不安を解消するとともに、市内のどこでも安全で快適に暮らすことができる地域を目指します。このため、本市の目指す理想像を「『しごと』と『ひと』が好循環し、誰もが『幸せ』を感じながら安全に暮らし続けられる地域社会の実現」とします。

### | 4 | 目標

この地域ビジョンの達成に向けて、本市では、以下の3つの目標とそれぞれの目標ごとに数値目標を設定します。

#### 《 3つの目標 》

1

本市に  
「しごと」と  
「ひと」の流れ  
をつくる

2

安心して  
結婚・出産・  
子育てできる環境  
をつくる

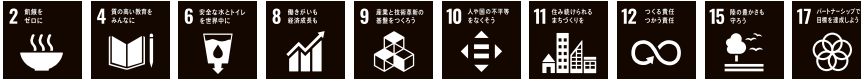
3

魅力的で  
安全な地域  
をつくる

# 1 本市に「しごと」と「ひと」の流れをつくる

市外から「稼いだ」資金を市内で循環させ、本市への新たな「ひと」の流れを生み出します。

## SDGs



## 数値目標

- 市内農業産出額：510 千万円（R6 年度：489 千万円）
- 一人当たり市内観光消費額：25,000 円（R5 年度：22,687 円）
- 市内創業件数：10 件（R5 年度：7 件）
- 転出超過数：80 人（R5 年度：111 人）
- ふるさと納税寄附額：35,000 千円（R5 年度：17,199 千円）

## 基本的方向

- ① 農林業において収益を向上させるための付加価値の向上や販路拡大に取り組むほか、農地の利活用や森林の適正な管理、担い手の確保対策を促進し、持続可能な農林業の実現を目指します。
- ② 本市ならではの歴史や文化、自然等、多様性に富んだ観光資源を最大限に活用し、「滞在型観光」への転換と「儲かる」観光を促進します。
- ③ 製造業等の基盤産業が、サービス業等の非基盤産業を牽引するという好循環をさらに加速させるとともに、市内事業者に対する経営相談等のフォローアップ体制を強化し、経営の安定化や都市部企業との事業連携、起業・創業しやすい環境づくりに取り組みます。また、デジタル地域通貨の活用拡大による地域経済の好循環を創出します。
- ④ 空き家の利活用や進学・就職・結婚をターゲットとした支援制度の維持、サテライトオフィスや企業誘致のための積極的な情報・魅力発信により、新たな「ひと」の流れ及び雇用を創出し、移住・定住につなげます。
- ⑤ ふるさと納税の活用等により「関係人口」を創出・拡大し、人が集まり、多様で活発な交流を展開します。



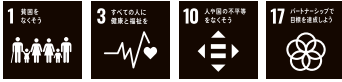
## ● 具体的な施策及び重要業績評価指標（KPI） ●

施策	重要業績評価指標（KPI）	現状値	単位	目標値（R11）	単位	ページ
①-1 農業の振興	新規就農者数	27	人	43	人	P42
	認定農業者数	91	人	96	人	
	農用地の利用集積率	13.9	%	21.0	%	
	市内農業産出額	489	千万円	500	千万円	
①-2 林業の振興	森林整備面積	93	ha	100	ha	P44
	路網整備延長	16,443	m	18,000	m	
	森林経営管理権設定面積	902	ha	1,902	ha	
② 観光業の振興	市内観光満足度数	89.4	%	90.0	%	P46
	一人当たり市内観光消費額	22,687	円	25,000	円	
	市内観光入込客数	605,958	人	650,000	人	
③ 商工業の振興	市内商業（卸売・小売業）の年間商品販売額	439.4	億円	450	億円	P48
	市内製造業の年間出荷額	421.3	億円	440	億円	
	市内創業件数	7	件	10	件	
④-1 移住・定住の促進	空き家バンクを通じた売買、 賃貸成約件数（年間）	16	件	20	件	P50
	転出超過数（年間）	111	人	80	人	
	サテライトオフィス認定数（累計）	13	件	18	件	
④-2 企業立地の推進と 雇用の促進	誘致企業件数（累計）	5	社	6	社	P52
	誘致企業における新規雇用者数（累計）	34	人	284	人	
	就職面接会による 市内事業所への就職者数（年間）	6	人	10	人	
	市内事業所（従業員5人以上）の 従業者の数	5,841	人	6,300	人	
⑤ 地域の内外との 交流の促進	近畿美馬市ふるさと会会員数	151	人	150	人	P82
	地域交流センターミライズが地域内外の交 流促進に貢献していると感じる市民の割合	42.8	%	60.0	%	
	ふるさと納税寄附額	17,199	千円	35,000	千円	

## 2 安心して結婚・出産・子育てできる環境をつくる

安心して結婚、出産、子育てができる環境をつくり、将来にわたって活力ある地域を目指します。

### SDGs



### 数値目標

- 子育てしやすいと感じている就学前の児童を養育する保護者の割合：85%（R5年度：64.3%）

### 基本的方向

- 1 乳幼児を育てる保護者等が交流できる子育て支援拠点事業の充実や、子育て応援ポイント付与事業などによる子育て支援を行うとともに、多様な保育ニーズに応えられるよう、保育の確保と質の高いサービスの提供に取り組みます。

また、1の目標と連動し、若い世代の雇用促進や、仕事と子育ての両立支援といった、子育てしやすい環境の整備に取り組むことで、若い世代が安心して家庭を築き、子どもを育てられるまちを目指します。

### 具体的な施策及び重要業績評価指標（KPI）

施策	重要業績評価指標（KPI）	現状値	単位	目標値（R11）	単位	ページ
① 子育て支援の充実	子育てしやすいと感じている就学前の児童を養育する保護者の割合	64.3	%	85.0	%	P26
	待機児童数	0	人	0	人	
	子どもの成長を見るのが楽しみであると感じる保護者の割合（ひとり親家庭抽出）	86.5	%	90.0	%	

### 3 魅力的で安全な地域をつくる

人々が集い、交流することで地域の魅力を高め、人口が減少しても、安全で、美しく健康に暮らすことができる地域をつくります。

#### SDGs



#### 数値目標

- 介護・支援を必要としない高齢者の割合：80%（R5年度：80.3%）
- 特定保健指導実施率：98%（R5年度：92.6%）
- 将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合：90%（R6年度：82.2%）
- 年間1回以上防災訓練を実施している自主防災組織の割合：40%（R5年度：19%）
- 美馬ふれあいバスの年間利用者数：15,600人（R5年度：15,011人）
- 木屋平ラクバスの年間利用者数：1,250人（R5年度：1,197人）
- マイナンバーカードの保有率：100%（R5年度：79.1%）
- 自治会加入世帯率：74%（R5年度：74.2%）
- 文化活動を行ったり、芸術に親しむ機会が身近にあると感じている市民の割合：45%（R5年度：31.7%）

#### 基本的方向

- ① 「100歳人生」の後半期において、いきいきと活躍できる魅力的な地域を目指し、全世代の市民の健康保持や体力の維持向上に取り組むとともに、学び・集い・交流できる機会を提供します。
- ② 子どもたちが夢や希望をもって成長することができるよう、学校のICT環境の充実や特色ある英語教育などに継続して取り組みます。
- ③ 防災訓練を通じて個人や地域の防災力の向上と防災意識の醸成を図るとともに、備蓄資器材等の整備を行い、避難生活の質の向上に取り組みます。
- ④ すべての市民が安全・安心、快適に利用できる道路環境を整備・維持するほか、市民生活に欠かせない地域交通のニーズに応えます。
- ⑤ マイナンバーカードの高い保有率を背景に、行政手続きのオンライン化や、住民票等のコンビニ交付の利用促進などに取り組み、市民の利便性を向上させます。
- ⑥ 自治会や地域運営組織への支援を継続し、コミュニティの維持・活性化に取り組めます。
- ⑦ 美しく貴重な市の自然環境や景観を次世代へ受け継ぐことができるよう、環境保全活動に取り組むとともに、温室効果ガスの排出抑制に取り組めます。
- ⑧ 多くの市民が文化・芸術に親しめるよう、市民活動の支援に取り組むほか、文化・芸術を支える人材の育成を支援します。

● 具体的な施策及び重要業績評価指標（KPI） ●

施策	重要業績評価指標（KPI）	現状値	単位	目標値（R11）	単位	ページ
①-1 高齢者福祉の充実 と生涯活躍の まちづくりの推進	介護・支援を必要としない高齢者の割合	80.3	%	80.0	%	P22
	介護サービスを必要なときに利用できていると感じる市民の割合	36.6	%	46.0	%	
	成年後見制度活用件数	9	件	15	件	
①-2 疾病の予防と地域 医療体制の確立	特定健診受診者に占める糖尿病有病者の割合（国保）	18.1	%	15.0	%	P30
	特定保健指導実施率（国保）	92.6	%	98.0	%	
	休日・夜間における医療供給体制の充足率	100.0	%	100.0	%	
	健康に関心があり、生活習慣の改善に取り組んでいる市民の割合	41.8	%	54.0	%	
①-3 ライフパフォーマンス 向上と スポーツ・生涯学習 の推進	週に1回以上の運動を実施している市民の割合	36.1	%	50.0	%	P36
	健康や体力保持のための施設や環境が整っていると感じている市民の割合	26.9	%	40.0	%	
	生涯学習や集い、交流する機会が充実していると感じている市民の割合	23.0	%	40.0	%	
② 学校・幼稚園教育 の充実と青少年の 健全育成	将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合	82.2	%	90.0	%	P38
	ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができていると感じている児童・生徒の割合	85.3	%	90.0	%	
	子どもたちの成長を地域ぐるみで支援できていると感じている市民の割合	24.3	%	40.0	%	
③ 防災・減災対策の 推進	ローリングストックや家具の固定など自宅で「備え」をしている市民の割合	40.6	%	55.0	%	P56
	年1回以上防災訓練を実施している自主防災組織の割合	19	%	40.0	%	
	木造住宅耐震改修実施数（累計）	45	件	70	件	
④ 地域内交通 アクセスの向上	主要幹線市道における改良率	3.2	%	20.0	%	P64
	美馬ふれあいバスの年間利用者数	15,011	人	15,600	人	
	木屋平ラクバスの年間利用者数	1,197	人	1,250	人	
⑤ 行政手続や生活の 利便性向上	市や国のデジタル手続きサービスの認知度	29.1	%	70.0	%	P72
	マイナンバーカードの保有率	79.1	%	100.0	%	
	スマホを使うことができる市民の割合	41.2	%	65.0	%	
⑥ コミュニティの 活性化	自治会加入世帯率	74.2	%	74.0	%	P74
⑦ 温室効果ガス排出 の削減と自然環境・ 景観の保全	CO <sub>2</sub> 削減率※	※	%	※	%	P78
	豊かな自然が残っていると感じる市民の割合	76.0	%	80.0	%	
⑧ 文化財・伝統文化 の保護・活用と 文化・芸術の振興	文化活動を行ったり、芸術に親しむ機会が身近にあると感じている市民の割合	31.7	%	45.0	%	P80

※本年度は現状値を把握するための調査を行い、次年度に策定する個別計画で設定する目標に基づき、進捗管理を行います。